

## 第5回東京都 AI 戦略会議

### ■日時

令和8年2月2日（月曜日）17時から18時30分

### ■出席者（オンライン形式）

（委員）松尾 委員（座長）、石角委員、江間委員、岡田委員、村上委員  
（東京都）宮坂副知事、高野デジタルサービス局長  
（（一財）GovTech 東京）井原業務執行理事兼 CTO

### ■議事要旨

#### 【開催挨拶】

#### 宮坂副知事

- ・ 本日はお忙しい中、「東京都 AI 戦略会議」にご参加いただき、感謝申し上げます
- ・ 急速に社会に浸透する AI の更なる利活用をすすめるため、東京都では「東京都 AI 戦略」に基づき、来年度も都政における AI 利活用を強力に推し進めていく
- ・ こうした観点から AI 関連の事業数や予算規模も倍増させ、都政のあらゆる分野で AI の徹底的な利活用を図っていく
- ・ この AI 関連事業を推進する力の一つとなるのが職員向けのガイドラインの策定
- ・ 前回の会議では、留意すべき事項への対応の考え方についてご議論いただいた
- ・ 本日は、来年度の東京都における AI 関連事業について報告するとともに、前回の会議でいただいたご意見も踏まえ、ガイドラインの素案をお示しする
- ・ 更に皆様と議論を深め、都政において AI がどんどん利用されるような体制を作っていきたいと思う
- ・ 本日の議論も踏まえ、年度内には現場で使えるガイドラインを取りまとめたと考えており、委員のお知恵をお借りしたい
- ・ 是非、忌憚のない御意見をいただければと思うので、よろしく願います

## **【討議】**

### **松尾座長**

- ・ 今回第5回ということで、AI利活用ガイドラインの中身について議論することを大変楽しみにしている
- ・ この会は本当に事務局と委員の先生方ががちりかみ合って、毎回素晴らしい議論が出来ていると思っており、本日もぜひ忌憚ない議論をいただければと思う

## **【討議（R8年度の東京都のAI関連事業）】**

### **松尾座長**

- ・ まずテーマ1「R8年度の東京都のAI関連事業」について

### **事務局**

- ・ 事務局から会議資料を説明（「R8年度の東京都のAI関連事業」及び「欠席者ご意見紹介」）

### **村上委員**

- ・ AIを利用することが目的になりがちであるが、都政におけるステークホルダーである都民のサービスに対して利便性を高めるという観点から、明確に進められているところが非常に評価できる点
- ・ 都政のAI利活用を都民にどのように理解していただくか、この説明もかなり重要なポイントになってくる
- ・ 特にAIは技術的で分かりにくいというイメージがあるため、シンプルに役立つということ、定量的な数値データだけではなく、定性的な都民の意見もあわせて公開されると、AIにより生活が良くなった、あるいは便利になったということを都民に実感してもらえる、良いきっかけになる  
また数値でKPIを設定すると、本来の目的と違ってその数値を追うことに注力してしまうという危険性もあるので、そういったことのないよう、定性的な観点についても検討いただきたい

### **岡田委員**

- ・ 今回のように都の取組を可視化し、タイムリーに情報共有していただくのは非常に重要なことだと思う
- ・ 都民から見てどのように効果を実感出来ているかという観点についても、可能な範囲で意見を収集して共有できるとよい
- ・ 一点だけ付け加える点があるとする、AIに関する取組についてさらに周辺の部分にも目を向けてみると、最近は特に官民でのデータ利活用について、国や地方公共団体が持っている眠れる宝の山になり得るようなデータを、どう民間で活用していくかなど、政府等で議論が進んでいる
- ・ 都自体がAIを利活用する取組もちろん重要だが、それに加え、そういったデータ連携などを踏まえ、周辺のAIデータ利活用の効果も可視化できるのであれば、さらに広がり生まれてプラスとなり得ると思った

### 松尾座長

- ・ 全体的に都のAI関連事業数が増えているということは理解した上で質問させていただきたい
- ・ 都民サービス関連業務が割合としては減っている
- ・ また、事業者等支援も、人材育成が増えているからだと思うが、割合としては減っている
- ・ もちろん絶対数としては増えていると思うが、何かコメントあればぜひお聞きしたい

### 事務局

- ・ 「東京都AI戦略」を策定してから、職員内部業務、都民サービス、また都民サービス関連業務と、各局が積極的に取り組んできた
- ・ 特に「東京都AI戦略」の中でもお示しした、リスクが比較的低い職員内部業務から都庁各局も着手したことで、職員内部業務のプロジェクトが増加し、全体的な傾向が変化したと考えている
- ・ 一方、都民サービス関連業務や、都民サービスに直接便益を及ぼせるようなAI利活用についても引き続きしっかり取り組んでいきたい
- ・ 「多様な主体とのAI利活用促進」の構成比についても、都民のAIのリテラシー向上など、第4回の東京都AI戦略会議でもお示しした都民調査等も含め、人材育成の領域が増加し、割合が変化したと考えている

## 石角委員

- ・ 今アメリカで話題になっているのが、Anthropic が出した AI 憲法という文書
- ・ なぜ憲法という言葉を使ったのかというと、AI は使い方や課題がどんどん変容していく中で、ルールではなく、その根幹としてあるべき指針のような位置付けで出した文書であるため
- ・ 都が策定するガイドラインの中にも、ルールベースだけでなく、1つ上のレベルの「こういうふうにあるべきだ」という価値基準をまず打ち出し、そこから KPI 等を策定できるのではないか
- ・ 例えば Anthropic の Claude という生成 AI に関しては、基準として4つ「便利であることよりも何よりもまず安全であること」「倫理性が高いということ」「Anthropic のガイドラインに準拠していること」「人々にとって役に立つこと」という順序で打ち出している
- ・ 全ての AI 企業がやっているわけではないと思うが、Anthropic は特にそういった倫理性や哲学をすごく重視している会社だというイメージはあるので、参考として挙げた

## 江間委員

- ・ 庁内向け AI ワンストップ相談窓口や研修の取組が進んでいるのはとても良いと思った
- ・ 相談窓口の運用にあたっては、当初はどのような基準で相談すべきか現場で迷いが生じることが懸念される一方で、事例が蓄積された後に「先例」により相談対応が固定化してしまうことも避けなければならない
- ・ 相談窓口の担当者も含め、「何のためにやるのか」という本来の目的に立ち返りつつ、将来を見据えたうえで柔軟に判断できるような仕組みづくりをあわせて進めると良い

## 【討議（「東京都 AI 利活用ガイドライン（仮称）」）】

### 松尾座長

- ・ 続いてはテーマ2「東京都 AI 利活用ガイドライン（仮称）」について

### 事務局

- ・ 事務局から会議資料を説明（「東京都 AI 利活用ガイドライン（仮称）」）

### 松尾座長

- ・ ガイドラインの核となる次の 3 項目について、各委員よりご意見を伺いたい
- ・ 1 つ目、「AI 利活用に当たって留意すべき事項等とその対応」。2 つ目、「AI 導入にあたっての標準的な検討プロセス」。3 つ目、「AI 利活用の考え方と特に留意すべきポイント」。

### 石角委員

- ・ 「AI 利活用に当たって留意すべき事項とその対応」について
- ・ この 6 つの留意すべき事項について、抽象的で現場の方が理解しにくい部分があると思う
- ・ また、例えば透明性と安全性がコンフリクト、ぶつかったときに、どちらを優先するべきかについて議論する必要が出てくるのではないか
- ・ 抽象的な議論だけだとなかなか話が進まない部分もあると思うが、現場で使う中でユースケースをどんどん洗い出し、この 6 つ全てを実現させるのか、コンフリクトが発生したときに、何を判断基準にするべきなのかを考えるとイメージが湧きやすくなる

### 村上委員

- ・ 留意すべき事項の「プライバシー」と「著作権」について、両方とも都民の関心が強いところだと思っている
- ・ 自分のプライバシーが、AI によってどのように脅威にさらされるのかが分かりにくいところであると思う
- ・ ただ、例えば「怖いので個人情報を AI で全く利用しない」ことに走り過ぎてしまうと、AI の利用が制限されてしまうということを理解してもらうことも重要
- ・ 個人を識別できないようデータを匿名化・加工する等の対応をしっかりと行うことをプロセスで担保することが重要
- ・ また著作権に関して、AI で作られたものなのかどうかを知る権利がある

- ・ 例えばパンフレットやホームページの公表物に AI の生成物を利用する場合、AI を使い、こういうプロセスできちんと著作権の侵害をしてないことを確認したということも、あわせて表示すると良い
- ・ 検討プロセスについて、東京都の職員も IT のプロばかりではないと思うので、都庁のオペレーションのことを分かっている方が、IT のプロではないながらも、どのように AI を導入すればリスクを減らすことができるのか分かるような、非常に良いガイドラインになっていると思う
- ・ またこういったプロセスがあるということを公表することで、都民の安心にも繋がる
- ・ 特に前回から表現を変えた「必須」と「推奨」は非常に良いと思っている
- ・ ただ、「必須」だけではなく、どれだけ「推奨」もカバーしたのかを示すと、都民の更なる安心に繋がるのではないかと
- ・ 「推奨」も対応したことが職員にも何かしらの形で報われる仕組みがあると良い
- ・ また、「必須」の中で気になったのが「ロジックの明確化」
- ・ AI のロジックはブラックボックスになってしまうところもあるため、どこまで対応すれば良いのかについて、もう少し専門家を交えて議論すると良い
- ・ 最後に、何が安全なのかというポイントについて、これは非常に客観的であり主観的でもある
- ・ AI の技術でできることがどんどん増え、情報も随時更新される中で、何を安全に感じ、何を脅威に感じるのか、都民の認識も絶えず変化していると考えられる
- ・ どのような点に AI への不安を感じるのか等を、都民との対話を通じて知ることはすごく大事だと思うので、検討されると良いと思った

### 松尾座長

- ・ 最後のところで、何が安全かということに関して主観的、客観的なことがあるとおっしゃったが、例えばどういうことがあるのかについて教えていただきたい

### 村上委員

- ・ 例えば、プライバシーのデータを使ってはいけないというと、一言で言うと使って良い・悪いが、1か0で感じられてしまうと思うが、どの程度の利便性が得られるならば何を提供してもよいか、あるいはどこまでなら公開しても構わないかといったポイントは、都庁内部の検討のみでは判断が困難
- ・ どこまでが安全に安心して使えるのかというポイントを、より丁寧に対話していくということが重要
- ・ 例えば、顔認識の議論でよく出るのが、顔を認識されることが気持ち悪いのではなく、それを知らないところで使われ、自分がいる場所が例えば東京都に全部わかってしまうというのが気持ち悪いというもの
- ・ こういった都民の感覚は、対話を重ねないとなかなか得られないので、しっかりと把握できる仕組みを作れると良い

## 岡田委員

- ・ 資料の中で、プライバシーについて「AIの学習や生成のために個人データを収集する場合はその利用目的を本人に明示し同意を得る」と、「同意を得る」としている
- ・ もちろん同意を得るとするのは一つの考えで、アプローチとしては十分あり得るし、原則同意を得るということ自体も違和感があるわけではないが、AIの学習や生成は本当に様々なユースケースがあり得る中で、現行法のもとでも必ずしも同意までは必須でないという局面もある
- ・ また今の個人情報保護法の法改正の議論でも、同意によらないような利活用という方向性も模索されている
- ・ 本人の権利利益にマイナス影響がないということが確保できるのであれば、一律に同意を必須とするというアプローチからは脱却する余地もある
- ・ また、「AI利活用の考え方と特に留意すべきポイント」の中で、「ロジックの根拠となる根拠法令や手順を明確」について、より具体的にした方が良かった
- ・ さらに、「都民サービス」の「4 予測・最適化」で、「予測に寄与した要因の情報提供」とあり、どこまで明らかにするのか、それを利用規約に書くのが良いのかなど、手法も含め、もう少し柔軟に対応できるよう考えてみても良いのではないか

## 江間委員

- ・ 詰めるべきところはまだあるのかなという気はするものの、方向としてはすごく分かりやすく、大枠は網羅されているのかなというのが率直な感想
- ・ その上で、このガイドラインを柔軟に運用していくためにどうすればよいのかというのは悩ましい
- ・ 現場の方として一番楽なのは「これでやりましょう」と言ってもらうことだが、そうすると余計なことはあまり考えないでこれをやりますとなり、逆に、オープンに「自分で考えましょう」となると、そこで止まってしまうこともあると思う
- ・ ガイドラインはページ数もかなり多く全部読むのは大変という中で、「この場合はどうすればよいか」が、単に検索だけではなく、チャット形式で過去の事例とか考え方がわかるようなことも検討されているというお話も事前にあったので、そのような方法も検討いただきたい
- ・ また、都における過去事例について、こういうパターンがあり、今回はどれに当てはまるのかなど、いろいろ考える材料や仕掛けがあると良い
- ・ 0から1を作るのは大変だが、1から派生で10、あるいは1A、1Bみたいなものを作っていくことは、日々の業務の中で行っていると思う
- ・ 事例を適切に示すことができる仕組みや仕掛けをうまく利用すると、使い勝手の良いものになるし、それが都以外でも参照できるようなものになると良いのではないか
- ・ 最後に、実際の都民の意見を聞く場というのをぜひ作っていただきたい
- ・ 情報を開示すると同時に、きちんと意見を聞く、あるいはどうすれば良いのか答えがないものが多いので、利用者自身もその分野の専門家であるという観点から、幅広い方々を巻き込んだ議論の場の形成というのもぜひやっていただきたい

## 石角委員

- ・ BPRについて、企画から廃止までのフェーズ全てに入れられたのは、大前提としてこの構図はすごく素晴らしい
- ・ 私自身もプロジェクトで「現場にAIを導入する壁」と「定着させる壁」の二つの大きな壁を超える中で、既存業務の見直しについて、全てのフェーズでやっていかなければならないと感じた

- ・ ここですごく大事なのが、現場との連携、コミュニケーション
- ・ AIの専門家がBPRを進めるだけでなく、AIと真逆のところで仕事をしている人をいかにBPRのチームに入れるかが大事
- ・ 我々の行った500店舗程にAIを一気にローンチするようなプロジェクトでも、店長などの声を本当に頻繁に集めた
- ・ そういう現場の声をどうやって拾っていくのか、現場の声を拾うためのツールが必要なのか等、具体的な話になっていくと思うが、本当に現場の人とのコミュニケーション、連携というのがすごく大事になってくる
- ・ 運用はかなり分厚く時間もとって、試験的な運用から本格的な運用という形でやっていく必要があると思う

### 高野局長

- ・ 今回ガイドラインという形でまとめさせていただいているが、これを現場の中でどう使っていくのかというのが、委員の先生方のお話を聞いて重要だと改めて思った
- ・ ガイドラインを作ったとしても、それが現場の中で生きるものにならないと意味がない、というのを実感したところ
- ・ また、これで完成ではなく、やはり都民あるいは現場の方々の色々な意見を反映させながらより良いものにしていって、変えていくということも大切なだろうと思った
- ・ 得てしてこういうものが出ていくと、AIを使うことに躊躇してしまう職員も非常に多くなるのかなと思うため、そういったことにならないよう職員を守るガイドラインにできるよう模索していくのが大事だと考えた
- ・ その点を意識しながら、このガイドラインを詰めたり、生かしていく仕組みというものをあわせて考えていきたい

### 宮坂副知事

- ・ BPRについて、何人かの委員の方からお話しいただき、本当にこの重要性を改めて肝に銘じてやっていきたい
- ・ ちょうど思い出したのが、AIというよりデジタル化の案件で、申請から該当の行政サービスを受けられるまで1年ぐらいかかってしまう業務があった

- ・ その後、デジタル化ではないところの、いわゆる業務の流れを見直すと、1年ぐらいかかっていたものが10分の1くらいになった
- ・ そこから非常に学んだことは、当たり前のことだが、非効率なものをどれだけテクノロジーで効率化しても非効率なまなのだということ
- ・ AIを入れるというのは業務を見直す非常に良いタイミングになると思うので、まず今のままAIを導入するのではなく、業務のやり方が本当に効率的なのかどうかをよく吟味した上で、AIを入れて良くしていくということを、改めて今いただいた
- ・ 「BPRなくしてAIをやるんじゃない」という、デジタル全般そうだと思うが、そういった気持ちで進めていきたい

### **井原業務執行理事兼 CTO**

- ・ 貴重なご意見いただいて非常に良いガイドラインが出来てきていると思うが、今までよくあるのは、「そうだよね」というガイドラインができたとしてもそれを本当に動かすことというのはなかなか出来てないことが多かった
- ・ 我々デジタルサービス局とバディとして連携することで、現場の具体的な動きを引き出せるようになってきていると感じている
- ・ しっかりご意見をいただいて作り上げたものを、実際に動かすところまでしっかりやっていきたいと思っている

### **松尾座長**

- ・ 一番複雑そうなところでいうと、「都民サービス」の「4 予測最適化」あたりで、もし各委員から何かご意見があれば

### **村上委員**

- ・ AIによる予測・最適化については、予測自体が目的ではなく、予測をした先の混雑回避やリスク回避といったところに目的があり、ここが「何を透明性高くする」のかということと関連する
- ・ 例えばイベント会場等で混雑予測に基づき入場制限を行う場合、制限された対象者に対しどのようなロジックで判断したのかを説明できることが求められる

- ・ 現在の記述は他の項目に比べて抽象度が高いため、具体的な事例において何を公表すべきかという例示を追記すると良いのではないか
- ・ 「都民サービス」の「4 予測最適化」に「AIによる予測精度の限界等に関する情報提供」とあり、ここはすごく重要だと思っている
- ・ 「推奨」にはなっているけれども、やはり都民は全てのAIのロジックの説明を聞いても、何が出来て何が出来てないのかを全て理解するというのは、難しいと思っている
- ・ 都民への情報提供においては、技術的な解説よりも、「どの程度の精度で予測しているのか」や「導入によりどのような利点があるのか」を伝えることが重要
- ・ 現行案では「推奨」とされているが、すべてを「必須」にすることによる現場負担を考慮しつつも、本項目については「必須」と同等の重要性を持って扱うべきかと思った

#### **松尾座長**

- ・ 「3 パーソナライズド支援」で、ここも実際に適用していくとなると、人によって出てくる情報が違うということになるので、都民の受容の準備状況によるかなと思った
- ・ そういうことが受け入れられるような段階に来ればもちろん良いのだろうが、なかなか最初は難しい場合もあるのかなと感じた

#### **宮坂副知事**

- ・ 「3 パーソナライズド支援」について、やはり都民に対する情報は、本当に膨大なものがあって、知られてない制度は存在しないも同然になってしまう
- ・ 今はそれを、都庁のホームページから色々クリックして自身で探してもらうスタイルを取るか、または都のホームページの担当者が意思を持って選んでいるので、なぜそれが一番上にあるのかと問われると、都庁の担当者が決めているとか、利用者が選びましたと言えた
- ・ そのような中、「3 パーソナライズド支援」で、じゃあ何でこれが1番目に来てこれは2番目なのかという透明性が、便利になる一方で失われるというのも感じてはいるところ

- ・ 民間ではパーソナライズドはもう当たり前のようにやられているが、行政でやる時にはちょっとそこは考えなければならないという点は、今ご指摘いただき、できるだけ透明性を持ちながらできれば頑張っていきたい

### 村上委員

- ・ 個人によって結果が違うものについて、きちんと説明するということは非常に重要だと思っている
- ・ AI に対する不信感の一例として、カーナビゲーションの事例が挙げられる
- ・ 全体の混雑緩和を目的として遠回りのルートを推奨されたユーザーが「なぜ自分が不便なルートをリコメンドされたのか」と、AI に対して不公平感を抱いたというもの
- ・ そういった不公平感を都民が持つことがないよう、パーソナライズドやレコメンデーションのロジックを示すということは、AI に対して不信感を抱かないためにも非常に重要
- ・ これはすごく難しい問題で、全てのロジックを説明することは困難ではあるものの、A と入れたら B が出るというものではない AI に関しては、かなり努力をして説明していくということが、公共性が高いサービスを提供する行政として必須となるのではないか
- ・ ただそれを 100%全部やらなければならないとなってしまうと、やはり AI の利用というのが制限されてしまうので、どこまで公開すれば良いのか、どこに不信感を抱くのかといったところを、先ほど申し上げたような都民との対話で得ていただけるとよろしいかなと思った

### 石角委員

- ・ 「パーソナライズド支援」について、行政サービスに対しては都民が何か必要性があってアクセスしているという前提があるので、民間サービスのレコメンドとは違うと思う
- ・ 能動的な検索を待たずに AI 側からプッシュというのは本当に素晴らしいと思うが、いわゆるコールドスタート問題のような、利用者のデータがない中で、その人が何を必要としているのかを判断するのは難しい部分もある
- ・ 行政サービスという大前提に立ち返ると、都民がウェブサイトに来る目的など、ある程度統計的に分類できるのではないか

- ・ 導入の初期段階においては、都民が行政サービスに求める意味合いに沿ったロジックの説明や、それに適したUI・デザインというのも、あわせて検討するとより良いと思った

### **松尾座長**

- ・ 石角委員、もし知っていたら、行政におけるアメリカやその他の国のプッシュ型通知の取組について教えていただきたい

### **石角委員**

- ・ アメリカだと大量に来るため、便利を通り越している
- ・ そのため、都民が都に求める接点の頻度を意識するのはすごく大事だと思う
- ・ あまりプッシュが多すぎると今度はみんな見なくなり本末転倒になってしまうので、バランスはすごく大事
- ・ 本当に必要なときに必要なタイミングで必要な形で届けることがベスト

### **江間委員**

- ・ 利用者側のニーズに合わせ、ある程度都民が選択可能で、その選択自体が負担にならないような設計というのは、難しいところではあると思うが、作りながらフィードバックを得て学んでいくところも大事になってくるのかなと思った

### **宮坂副知事**

- ・ 委員の皆様から、意見がもしあればいただきたいなと思うのは、効果測定に対する考え方
- ・ 一番分かりやすい効果測定は、「今よりもコストが3割下がる」「処理時間が2割下がる」等はすごく分かりやすく良いと思うが、10年にわたって3割下がり続けることはなかなかない
- ・ 時間や費用を減らすというのは、目に見えているものを減らすことができるので説明のしやすさもあるが、AIによって今までなかったものが得られる「かもしれない」というところは説明が難しく、今まで行政はあまり「何か得られるかもしれない」というところにベットしなかったのでデジタルの投資ができなかったのではないかなと、反省も含めて思っている

- ・ まさに AI などというのは本当に破壊的で非連続的なイノベーション中のイノベーションだと思っているので、長い目で見たときに、効果測定をするというのがなかなか我々のこれまでの考え方では難しいなと思う
- ・ これからどういうことが起きるか、非常に読みづらいテクノロジーを入れるときの、ポジティブ側の効果測定について、どういう考え方で臨めば良いのかについて、もし皆さんお考えやアイデアがあれば伺いたい

### 石角委員

- ・ まず非常に現実的な第一歩の KPI としては利用頻度や利用率で、ここが本当に大事
- ・ 導入はうまくいくと思うが、現場の人が思った以上に使ってくれないという問題はどんなに BPR を行っても出てくると思う
- ・ 例えば収益率をどれだけアップした等、長期的なポジティブな KPI も、AI を使ってくれないと到達できないので、まず最初の第一歩は、つまらなく見えるかもしれないが、利用率だったり、どれだけの人が使っているか
- ・ どうやってみんなに使ってもらえるのかというのを意識して高めていき、最終的にそれが BPR とマッチし、AI なしではやっていけないという状況になる、させる、というのがすごく大事
- ・ そうするとイノベーションや新しいビジネスモデルが生まれてきたり、データを使って新しい Platform as a Service みたいのができるようになる
- ・ その基盤をつくるための KPI として、今言った利用頻度・利用率が、つまらなく見えるかもしれないが、大事だとは思う

### 村上委員

- ・ KPI についてすごく難しいのは「誰が使う人なのか」で KPI を検討した方が良いと思っている
- ・ 都民だと、利用率は AI を便利とってくれる人がどれぐらいいるかという試金石になる
- ・ 一方、これが都の職員が相手になり、部門別にどのぐらい使っているかといった利用率を測り始めると、使うことが目的化してしまうということが起こり得てしまうので、気を付けたほうがよい

- ・ そのためにどうすれば良いのかというと、先ほどプロセスの変革のところ  
で、AIを使わざるを得ないような、効率化をせざるを得ないような、そう  
いう仕組みにするのが一つの手法
- ・ 単に利便性を訴求するだけでは、職員は慣れ親しんだ既存の手法に固執し、  
変化を恐れる傾向がある
- ・ そのため、新しい手法を利用せざるを得ないような仕組みを導入すること  
を、ついていけない職員を取り残さないという配慮との両立は困難ではある  
が、考えていくと良い

### 松尾座長

- ・ 一番理想的に言う、「AIによってどのぐらい人手を削減できたか」×  
「この削減した人手で新しい付加価値をどれだけ生み出したか」という、そ  
ういった掛け算のような指標ができると一番良いのだろうなと思っている
- ・ 測定の仕方がなかなか難しいので、色々考えていかないといけないが、そう  
いった効果測定の方法というのは重要だと最近よく考えているところ

### 松尾座長

- ・ 最後に、本日の議論をまとめる
- ・ 東京都の AI に関する取組は非常に素晴らしい
- ・ それをいかに都民あるいは職員にさらに理解していただくように発信するか  
ということは重要である
- ・ それから東京都の AI 利活用ガイドラインは、大枠は非常に素晴らしいもの  
だということで、指摘は委員から全くなかった
- ・ 細かいところでは、例えば透明性と公平性がぶつかるときにどうするのか、  
ロジックの透明化をどこまでやるのか、あるいはプライバシーの同意が本当  
に必要なのかなど、いくつか論点があったので、これらについてはぜひ詳細  
に検討していただきたい
- ・ もう 1 つ重要な点は、都民の意見をきちんと聞いていただきたいということ
- ・ 都民と対話する場を設けて、こういったやり方を適宜修正していただけると  
良いのかなと思った

- ・ 最後に、パーソナライズドあるいは予測のところについて議論させていただいたが、やり方によっては相当良いものになっていくと思うので、公共サービスならではの部分も踏まえながら、ぜひ進めていってほしい

## **【今後のスケジュール】**

### **事務局**

- ・ 今日様々議論いただき、先ほど松尾座長がまとめてくださったとおり、大枠についてはご了承いただけたものと思いつつ、中身の細かいところについては、現場でしっかり機能するようブラッシュアップをさせていただきたい
- ・ その上で、年度内を目途に、都庁の中に AI というテクノロジーを導入していく観点で、本ガイドラインを名称も含めて整理をさせていただければと思っている
- ・ 取りまとめに当たっては、引き続き各委員にご相談をさせていただく機会を設けさせていただきたい
- ・ 加えて、本ガイドラインがある程度出来上がってきた段階で、例えば岡田先生にもご協力いただいた既存の「文書生成 AI 利活用ガイドライン」の見直しなどを行い、今回議論いただいた AI 導入のためのガイドラインと、実際に職員が AI を利用するに際して注意すべき点などのルール・マニュアルのようなかたちで、整理を並行して進めさせていただきたい

## **【閉会】**

### **高野デジタルサービス局長**

- ・ 本日は長時間にわたり、会議にご出席いただき、感謝申し上げます
- ・ 皆様からの専門的な知見によって、極めて示唆に富む意見であったと認識している
- ・ 今回いただいたご意見を参考に、AI を行政サービスに導入する指針として本ガイドラインの策定を着実に進めてまいりたい
- ・ 策定にあたり、皆様方にご意見を頂戴することもあろうかと思うので、よろしくお願ひしたい

- ・ また本ガイドラインを踏まえ、AI を実際に利用する職員向けのルール作りも重要であると思っている
- ・ 本ガイドラインを策定するだけで終わりではなくて、それが現場で使えるような形にしていく、そういったところも含め再整理をしていきたい
- ・ また、この本ガイドラインについて、様々な留意すべき事項というものを書かせていただいているが、逆に AI を利活用することをためらうものになってはいけないと改めて思った
- ・ このガイドラインがあるからこそ安心して AI の徹底した利活用が可能なものにしていく、そういったところを目指してガイドラインを策定し、また現場の落とし込みも考えてまいりたい
- ・ 都や区市町村における優れた取組を共有・表彰する「DX アワード」でも、昨今 AI の取組が非常に多くなってきている
- ・ 今回のガイドラインを契機に、ギアアップをしてより活用されるものにしていくため、そういったアワードの中でも AI をテーマに取り上げるなど、AI の利活用に着目した取組も併せて進めることにより、都民サービスの充実、職員の利便性向上に繋げていきたい
- ・ 今後も引き続きお力添えをいただきたい

以上